

# 令和7年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和7年度全国学力・学習状況調査」を実施し、8月下旬に個人ごとの結果をお返ししました。また、吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語、算数、理科に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えております。

対象となった6年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として参考にさせていただきますようお願いいたします。

## 1. 教科に関する調査の分析

### ●国語《概要》

《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

#### 言葉の特徴や使い方に関する事項

結果：全国値とほぼ同じ

#### 話すこと・聞くこと

結果：全国値とほぼ同じ

#### 情報の扱い方に関する事項

結果：全国値をやや下回る

#### 書くこと

結果：全国値を上回る

#### 我が国の言語文化に関する事項

結果：全国値をやや下回る

#### 読むこと

結果：全国値をやや上回る

### ●国語科における成果と今後の改善点

成果：

書く力において全国を上回る成果が見られ、表現力の面で大きな強みがある。

読むことに関しても全国値をやや上回り、読解力の基盤が整っている。

話すこと・聞くことは全国値とほぼ同じで、安定した成果を示している。

改善点：

情報の扱い方や言語文化理解において課題が見られるため、資料読解や古典学習を通じて理解を深める必要がある。

言葉の使い方については、正確さと適切さをさらに定着させる取り組みが求められる。

## ●算数《概要》

《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

### 数と計算

結果：全国値を上回る

### 変化と関係

結果：全国値を上回る

### 図形

結果：全国値を上回る

### データの活用

結果：全国値を上回る

## ●算数科における成果と今後の改善点

成果：

「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」の各領域で全国値を上回り、基礎技能の定着と応用場面での活用が進んでいる。

「知識・技能」「思考・判断・表現」の両観点においても全国値を上回り、バランスの取れた成果が見られる。

選択式・短答式・記述式のすべての問題形式で全国値を上回り、特に基礎的な知識・技能の定着ができています。

改善点：

記述式問題では、考え方を筋道立てて説明する力に課題があり、論理的な表現力を育てる必要がある。

測定分野については今年度の出題はなかったが、日常生活や体験的活動と結びつけて理解を深めることが重要である。

## ●理科《概要》

《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

### 「エネルギー」を柱とする領域

結果：全国値を上回る

### 「生命」を柱とする領域

結果：全国値を上回る

### 「粒子」を柱とする領域

結果：全国値とほぼ同じ

### 「地球」を柱とする領域

結果：全国値とほぼ同じ

## ●理科における成果と今後の改善点

成果：

「エネルギー」「生命」の領域で全国値を上回り、基礎的な理解と応用力が育っている。

「粒子」「地球」の領域でも全国値とほぼ同じ水準を維持しており、安定した成果が見られる。

知識・技能、思考・判断・表現の両観点で全国値を上回り、バランスの取れた学力が確認された。

選択式・短答式・記述式のすべてで全国値を上回り、特に短答式で高い成果が見られた。

改善点：

記述式問題では、考え方を筋道立てて説明する力に課題があり、論理的な表現力を育てる必要がある。

粒子や地球分野では、現象を科学的に説明する力をさらに強化することが求められる。観察や実験を通じて「科学的に根拠を示す力」を伸ばすことが今後の課題である。

## 2. 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

### 【学習環境・生活環境について】

良い点

困りごとや不安を学校の大人に相談できるか

相談しやすいと感じる児童が全国平均より多く、学校内の安心・信頼の基盤が良好である。

日常で幸せな気持ちになる頻度

ポジティブな感情をよく感じている児童が全国平均より多く、情緒面での安定やウェルビーイングが育まれている。

改善が望まれる点

自分のよいところがあると思うか

自己の良さへの確信が全国平均より弱く、自己肯定感のさらなる醸成が望まれる。

困っている人を進んで助けるか

向社会的行動の自己評価が全国平均をやや下回り、主体的な支援行動を促す機会づくりが課題である。

いじめはどんな理由でもいけないと思うか

強い規範意識の形成が全国平均に比して弱く、いじめ防止の価値観・態度の一層の定着が求められる。

### 【教科・学習について】

良い点

インターネットで情報収集できると思うか

デジタル検索・情報収集への自己効力感が高く、ICTを活用した主体的な調べ学習の土台が整っている。

ICTでプレゼンテーション作成できると思うか

発表用スライド作成への自信が全国平均より高く、表現・発信スキルの育成が進んでいる。

ICT活用で分からないことをすぐ調べられる

学習者主体の探究姿勢が定着しており、学びの自律性を支えるICT活用が機能している。

話し合い活動で考えを深めたり新たな考えに気づけるか

協働的な対話を通じて思考を深める学習文化が全国平均より強く根付いている。

#### 理科で観察・実験をよく行っているか

体験的・探究的な理科学習が活発で、実験・観察を基盤とした学びが充実している。

改善が望まれる点

#### 問題に直面した際の粘り強い探究

解き方が分からないときに「あきらめずにいろいろな方法を考える」という姿勢が全国平均より弱く、代替方略の発想や試行・検証の粘り強さが課題である。

#### 算数学習の社会的意義の実感

「算数の学びは将来社会で役立つ」と感じる実感が全国平均より低く、学びの意味づけが十分に届いていない。

生活・地域・職業場面と結び付けた課題（家計・料理・時間計画・統計データ活用・表計算など）を取り入れ、探究・総合的な学習やICT活用と連動して“役立ち感”を具体化することが求められる。

#### 計算の工夫・戦略選択

小数・分数の計算で「工夫して計算しようとする」傾向が全国平均より弱く、効率的な方略選択（約分・通分・分配法則・桁の扱い・ベンチマークによる見通し等）が十分に定着していない。

### 3. 今後の取り組み

学校教育目標を「自律・共感・協働」とし、本年で2年目を迎えます。子どもたちも、職員も、誰もが言える目標として取り組みを進める中、本校の研究推進委員会を中心に教師主導型の授業から、児童が主体的に活動し、自ら問をもち、考える授業へと転換している成果が、学力テストの結果として表れているように感じます。また、一人一台端末の活用も低学年の児童から定着し、調べ学習だけでなく、まとめたことを効果的に発表するツールとして活用できるようにもなってきました。

その一方で、筋道を立てて考える力、集めた情報を整理して伝える力など、数多くの情報を取捨選択し、他者に伝える力の育成には課題が見られます。さらには自分もみんなも大切にできるよう、自己肯定感の向上やいじめ防止への取り組みの充実も必要です。

本校の研究テーマである「対話的・協働的な学習」の実現に向けて、児童同士が話し合い、教え合う授業づくりに取り組んでいきます。また、異学年集団におけるあすなろ活動を中心に、運動会、音楽会をはじめとする様々な行事を通して、児童同士が高め合う中で、自己肯定感の向上につなげていくことを目指します。

これからも児童だけではなく、保護者や教職員も安心して過ごせる学校づくりに取り組んでまいります。